

## 「あいつ」に出会う旅

大人も子どももだれもが「風を見た少年」なんだ

劇団あとむ 楠 定憲

C. W. ニコル著「風を見た少年」の面白さは主人公の「あいつ」の発見のたびにあっと思われ、ハッと気づかされ、読み終えた時には、日ごろ狭くなりがちな眉間がスーッと開いていく感覚を覚え、爽やかさとともに、なんだか不安がいやされて、凜とした心持ちになるところです。それにしてもこの爽快感はいったいどこからくるのでしょうか。自然との共生を唱え、今、黒姫の森から未来を見つめるニコルさんの物語の一言一言が「本気の声」で伝わってくるからだと思います。

「遊びから創造へ」を提唱し実践している演出の関矢幸雄先生にはいつも「本気で遊べ」と言われます。本気で向き合うことで、本当が見えてくるからです。今、子どもたちに何が大切で、何が必要な事柄なのかを本気で伝えなければならないと思います。いや、そのためには子どもたちへの一方通行ではなくかれらから発信する信号にも耳を傾けることも必要です。気づき合うという心が。

自然界の中に、人間界の中にそれぞれの役割があると思います。別々の異なる仕事も根っこではつながっていると考えています。私たち演劇人の役割は、人の心を動かすことです。昨日の自分とは違う新しい自分を感じてもらうことです。ここまで書いてきて少し気恥ずかしさをおぼえてきましたが、こう思うのです。物言わ(え)ぬ声にも耳目心を傾けつづけることが大切と。人間のすばらしい能力のひとつに、「想像力」と「表現力」があります。だれにも等しく備わり、何ものにも規制されず自由です。ただし責任はありますが。

「風を見た少年」の「あいつ」は、昆虫や鳥や動物たちとも話ができます。風が見えるから空を飛ぶことができます。不思議や驚きがいっぱいあってきっと楽しいだろうなあ。「あいつ」は昔の世界へ行くことができます。そこで知る出来事に涙しますが、『いま』をどう生きて未来につなげるかを学びます。

さあ、みなさん、だれもが「あいつ」です。明るく軽やかに、風を見つけて、その風によって爽快な旅に出ようではありませんか。

12月24日にお会いしましょう。



楠 定憲氏

### プロフィール

1956年今治市に生まれる。海あり川あり山ありの暮らしを、堀江・松丸・富田で8年間送る。東京の大学で演劇を学び、当時から子ども劇場での公演にかかわっていた。89年劇団あとむと出会い、「あとむの時間はアンデルセン」「気のいいイワンと不思議な子馬」他全作品に出演。

今年のクリスマス☆イブに上演の「風を見た少年」に「熊爺」役で出演されます